

日本語教育への CLIL (内容言語統合型学習) 導入の可能性 —教室で日本語を使う理由と機会を創り出す—

日時：2016年10月29日 10:00~12:00

場所：モスクワ国立大学アジア・アフリカ諸国大学 (ISAA)
第128番教室 Mokhovaya 11

講師：青木 直子 (あおき なおこ) 先生

大阪大学大学院文学研究科教授。第二言語としての日本語の教授法を教える。主な研究テーマは学習者オートノミーで、CLILの実践はそれとは少し傾向を異にしている。主な業績に『日本語教育学を学ぶ人のために』世界思想社 (2001年、尾崎明人・土岐哲と共編著)、『学習者オートノミー：日本語教育と外国語教育の未来のために』ひつじ書房 (2011年、中田賀之と共編著)、「日本語教育と芸術学のコラボレーション：大阪大学文学部におけるCLILの試み」『第二言語としての日本語の習得研究』16号, 91-106. (2013年、脇坂真彩子・小林浩明と共著) などがある。

セミナー概要：

CLIL (内容言語統合型学習) は、母語以外の言語で特定の教科あるいは専門を学び、目標言語の能力と教科／専門の知識を同時に身につけることを目的とします。1990年代にヨーロッパで始まった教育実践で、ロシアでも英語教育などで取り入れられています。コース・デザインや授業実践において、教科／専門教育の専門家と、言語教育の専門家の緊密な連携が必要とされますが、外国語環境にあっても目標言語を使う理由と機会を創り出せる、外国語で知的な活動を行えるようになるという利点があります。本講演では、主に日本の英語教育の実践を例としてCLILとは何かのイメージをつかんでいただくとともに、大阪大学文学部が実施した短期集中型の日本語CLILプログラムを例にとり、コース・デザインの段取りを解説します。

その他：

参加費無料
受付開始：9:30~

主催：ロシア日本語教師会、国際交流基金モスクワ日本文化センター
協力：モスクワ国立大学アジア・アフリカ諸国大学 (ISAA)

問い合わせ先：国際交流基金モスクワ文化日本センター
Tel: +7-495-626-55-83/85
E-mail: japanfoundationmw@gmail.com